

光・量子飛躍フラッグシッププログラム (Q-LEAP)
ステージゲート評価結果 (8 年目)

1. 研究開発課題名

先端ビームによる微細構造物形成過程解明のためのオペランド計測

2. 研究代表者名 (所属機関名・職名は評価時点)

国立大学法人京都大学 化学研究所 研究員

橋田 昌樹

3. ステージゲート評価結果 (8 年目)

○結果

8 年目ステージゲート通過とする

○評点

A : 評価項目を満たしており、課題の継続実施が妥当である

○総合評価コメント

8 年目ステージゲート目標に掲げている全項目のスペックを達成しており、一部では既に 10 年目の目標まで到達している。特に、オペランド計測装置の開発においては、レーザーアブレーションによる膨張面の変化を数 10 フェムト秒の時間分解能且つ数 10 ナノメートルのオーダーで解析した成果は特筆すべき成果である。

LIPSS やナノドット構造の応用展開においても一定の成果を示しているが、その一方で、肝心の微細構造物形成機構の解明はまだ不十分と思われる。過去の研究の整理なども含め、対象としている現象を整理してその形成機構の現状を明確にし、さらなる学理的深化と応用展開の両立が期待される。

以上を踏まえて、本課題は研究継続が妥当と判断する。

以上